

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400881		
法人名	有限会社 ユースフル		
事業所名	グループホーム 星の家(1階 彦星)		
所在地	札幌市手稲区稲穂1条1丁目8番18号		
自己評価作成日	令和6年10月15日	評価結果市町村受理日	令和7年1月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170400881-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和6年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナが5類になり、1年余りが過ぎました。コロナ感染の心配がまだある事から、時間を決めて施設内の換気を継続するなど、感染防止に努めています。また、全てが以前の様にはいきませんが、段階を踏みながら、外部の方たちとの交流を再開しました。現在は、御家族との面会を居室で行うと共に、御家族との外食や行事への参加、受診も出来る限り、ご希望に沿えるようにしています。また、行事もホーム内で行っていましたが、花見や外食など外出の機会を持ち、天気の良い日には、外気浴を行っています。敬老会では、外部より、シンガーソングライターの方に歌を聴かせて頂きました。「ふるさと」「もみじ」など懐かしい歌に入居者の皆様は、思い思いに口ずさまれ、楽しいひと時を過ごされていました。2ヶ月に1回行う運営推進会議にも町内会や地域包括支援センターの方、御家族にも参加して頂き、ホームでの生活の様子や取り組みを伝えたり、要望などを伺う機会となっています。また、町内会役員の方に、避難訓練に参加して頂きました。お誕生日会や出前によるお食事会等の行事を継続しながら、楽しみを持って生活して頂けるよう、これからも努めて参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、最寄りのJR駅から数分にある住宅街に位置し、地域とは相互の行事に参加があるなど良好な関係を築いている。職員は、理念にある「人格の尊重と楽しみの在る生活空間作り」の実践に努め、利用者が笑顔になれる企画立案をしている。リビングでの夏祭りでは法被を着て祭り仕様の団扇を持ち、おもちゃの金魚やスーパーボールをすくい、手作りの輪ゴム鉄砲で紙コップを的に撃つなど、利用者は昔ながらの祭り気分を味わっている。食の楽しみ事は、日常的に利用者の要望に応え、おはぎなどを用意し、定期的に食事会を設け、回転寿司店に出向く利用者や、留守番の利用者には出前寿司が届いている。ときには、ドライブがてらソフトクリームを楽しんで食している。家族の支援で外来受診や買い物、墓参り等ができている利用者もあり、一緒に利用者を支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目							
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くいない				
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所やスタッフルーム等に理念を掲示し、職員間で共有し、理念に基づいた仕事が出来よう意識している。	グループホーム星の家の基本姿勢を示す理念は、事業所の要所に掲示し、常に目にする事で職員の意識化に繋げている。ミーティングなど折に触れ理念が実践できているかを確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類に移行されてからは、町内会の活動に参加する様に努めている。また、町内会の役員の方たちに避難訓練の参加をお願いしている。	町内活動である清掃、資源物回収、花壇の手入れ、総会に出席など地域の一員として協力している。複数の町内会役員が運営推進会議のメンバーになっており、また、住民からの介護相談や見学、実習生を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議へ町内会の役員や地域包括支援センターの職員の方に出席して頂き活動内容の報告を行い、理解を深める取り組みを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、町内会や地域包括支援センターの職員・入居者様を交えて、行事や入居者様の様子、不適切対応等について話し合いを行いサービス向上に役立てている。	会議は年6回の開催を計画し順次実行している。複数の町内会役員、地域包括支援センター職員、家族、利用者の参加の下、行事等の活動内容、利用者や職員状況、身体拘束廃止など各種委員会の内容、事故やヒヤリハット等を報告している。	報告後に利用者から食事に関しての要望はあるが、他のメンバーからの意見が少ない状況にあり、今後に向け意見や提案、評価、情報等での話し合いが行われることに期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者やケアマネジャーが主に市の担当者・区の保健福祉課と連携を取り、介護保険に関する手続きや事業報告を行っている。	代表者でもある管理者と管理者代理が、適正な運営に向けて行政の各担当者とメールや電話等を介して協働関係を築いている。運営指導や集団指導での意見や情報等を運営の質の確保に生かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止の為、委員会を設置し、定期的に会議やミーティングなど、内部研修等で理解を深めている。	身体拘束をしないケアは、代表者始め職員の共通認識であり、実践に取り組んでいる。日々の業務はもとより、定期的に開催する適正化委員会や研修会で職員はより正しい理解に繋げ、言葉の抑制等は特に意識して業務にあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為、委員会を設置し、定期的に開催し、理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングや内部研修で理解を深めているが、今年度からeラーニングにて、各自が時間を使い、権利擁護についても学んでいる。現在、成年後見制度を利用されている方は、いらっしゃらない為、支援は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項も含め、入居者様やご家族に十分な時間をかけて説明を行い各同意書にもご理解を頂いている。料金の改定があった場合には、その都度、文書等で説明をし、納得を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見・要望は、日々の会話の中や運営推進会議で聞き取り、ご家族様からは、面会時や電話また、アンケートなどから伺い、反映している。	家族には、年4回、行事等の写真と個別にメッセージを添えたユニット便りを送付し、好評を得ている。さらに相互の電話や来訪時、年1回の家族アンケートで意向の汲み取りに努めている。買い物など利用者の要望にも出来る限り応じている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の個人面談をはじめ、日々の申し送りや毎月のミーティングの際に意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。	職員は、業務に関しての提案や意見を管理者に伝えている。殆どは、利用者がより良く暮らし続けるための提案であり、職員間で検討し改善に生かしている。職員の個人的な要望にも耳を傾け、働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経験年数やスキルの他、家庭環境や身体影響も考慮し、働きやすい就業環境を整える事に努めている。介護職員処遇改善給付金の支給も年2回行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員の経験やスキルを考慮し、外部研修への参加の機会を設けている。また、eラーニングにて介護職員向けの研修を業務のすきま時間を利用し、受講する取り組みを開始している。		
14		代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区が主催の管理者会議や研修も開催される様になった。参加する機会を増やしていけるよう取り組んでいく。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者やケアマネジャーがご本人やご家族と面談をし、要望などを聞き、情報を収集し、安心して入居出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の管理者やケアマネジャー等がご家族と面談をし、日常の様子や困っている事などを聞き、安心して入居出来るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族との面談などで収集した情報を基に生活状況を見ながら、必要な支援を職員間で考え、共有し行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	現状で、ご本人のしたい事、できる事を続けて頂き職員は、見守り・支援を行い、共に暮らしていく関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に近況報告のお手紙を出し、日々の様子をお知らせすると共に、居室での面会を再開し、御家族との受診や外出などコロナ禍で出来なかった関係づくりの構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時に持って来られた写真を居室に飾って頂いたり、日常の会話の中で、昔話に耳を傾ける等、関わりを大切にしている。	居室での面会が叶い、利用者は大切な人々と話を交わしている。家族の支援でドライブ、買い物、墓参り、一時帰宅、外泊ができて利用している。電話や手紙の取り次ぎ、また、利用者の昔話を傾聴し懐かしい思い出を共有している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション・毎月の行事等で、一緒に過ごす機会を作り、孤立やトラブルがなく楽しんで頂くよう努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、御家族様より、相談があった場合支援を行い、信頼関係が続くよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や運営推進会議の中で、希望や要望を把握し、沿えるように状況に応じて検討している。	職員は、目配り、気配り、心配りに努め、利用者本位の生活空間作りを目指している。日々の関わりの中から意向や要望を捉え、おはぎやおやき、甘酒などを用意し、また、利用者の希望する一番風呂に応じている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族からの入居時の情報や利用していた事業所からの情報を確認し、職員同士が共有し、毎日の生活に活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や変化を申し送りや介護記録等で把握に努め、職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや日々の申し送り、御家族に面会時や電話で様子を伝え、要望などを聞き取ると共に職員間で話し合いをし、現状に合わせたケアプラン作りに努めている。	定期見直しや利用者の心身の状態に変化が見られたときは、改めて利用者や家族に生活への意向を確認し、現プランの支援目標が適切であるかを会議で検討している。ケアプランの実践は介護記録で確認でき、見直し時に生かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の介護記録を細かく記入し、朝夕の申し送りで共有し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望やご家族の状況に応じて、病院への受診・必要物品の購入等その他を柔軟性を持って対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御家族と外出の機会を持てるようになり、外食や行事への参加を行う事が出来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居の段階でご家族と話し合いながら決めており、内科・歯科の定期受診や臨時の往診にも対応して頂き、適切な医療が受けられるように努めている。	定期的に内科医と歯科医の訪問診療があり、さらに看護職員による健康管理が行われている。専門医への受診は家族対応を基本とし、利用者の健康状態は、関係者と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に入居者様の日常の様子や特変事項を伝え、適切な受診・看護が受けられる体制作りが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、職員も同行し状況を伝え、入院中は、介護添書等で日常の様子を伝えたり、早期の退院が出来るよう医療機関と連携を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていないが、管理者・看護師・ケアマネージャーが対応し、入居時に重度化した場合のことを説明している。	入居時に看取り支援は行っていない事を説明して同意を得ている。医療行為が常時必要になったり、食事摂取が困難なときは、生活拠点を移すことになるが、それまでは最大限の支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時や事故における初期対応について話をし、理解を深めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1度の避難訓練を夜間想定し、行っている。町内会の協力により、役員の方が参加し、協力して下さっている。	これまで夜間時の火災と地震後の火災発生を想定した避難訓練を実施している。新人職員はもとより町内会長の参加や利用者がゼッケンをつけるなど、臨場感を持って訓練に臨んでいる。火災以外の避難場所は、事業所としている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、不適切な対応や言葉使いがないようお互いが気を付けている。	職員は、研修で不適切な言葉の事例等で言葉遣いやマナーを学び、実践に移している。利用者に関しての伝達時はイニシャルを使い、個人記録も適正に管理している。職員間においても注意を促す関係性にある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、入居者様の思いや希望に沿って過ごせるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、希望に沿って楽しく過ごせる日々の体調や気分に合わせて、支援が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用されている。また、衣替えをし、季節に合った服装が出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	様子を見守りながら、食事の準備や後片付けを手伝って頂いたり、希望されるおやつなどを提供している。	朝と夕方は業者から届いているが、昼食は買い物をして職員が作っている。食事会には少人数で回転寿司へ、行けなかった利用者には出前寿司を取り、敬老会には赤飯入りの三段重のお弁当を用意して目先を変えている。要望のおはぎやおやき等にも応じて楽しみ事に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の健康状態を考えながら、食事量、形態を考え提供している。また、一日に必要な水分を取って頂くよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に声掛けを行い、口腔ケアを実施している。自力で出来ない方には、介助にて行っている。定期的に歯科医の往診を受けて頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、声掛けやトイレへお連れし、介助が必要な方には、状態に合わせて支援を行っている。	夜間のみポータブルトイレを使用する事例もあるが、日常的に自立排泄者の見守りや声掛けでトイレに誘導している。排泄状態に変化が生じたときには、職員間で検討後に利用者や家族の同意を経て衛生用品を使用するなど、不快感を取り除く取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を提供し、献立に野菜を多く取り入れたメニューや水分量の確保、体操・歩行運動など体を動かす機会も設けている。必要に応じ、下剤による排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴が出来るように、ホームで決めた時間に対応している。一人一人の体調や希望に寄り添い無理強いすることなく支援している。	身体状況により2人介助や足湯にシャワー浴もあるが、殆どの利用者は湯船で寛いでいる。週2回を目安にしているが、利用者の意向を尊重し柔軟に対応している。入浴時間は、利用者との親密度が増し情報を得ることも多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の様子や前日の睡眠時間を考慮し、居室で休んで頂いている。夜間は、安心できるよう声掛けや見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書を個人別にファイルしており、変更時には、連絡ノートにて確認・共有をしている。また、嚥下状態などその方にあった服薬方法を工夫し、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時の情報や日々の関わりの中で、一人一人の好きな事を確認し、ご本人にあった楽しみ方が日々出来るよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームでは、天気の良い日には、玄関前で外気浴をしたり、花見や外食する機会を持つ事が出来るようになった。また、御家族と一緒に受診されたり、外食や行事への参加もできるようになった。	暖かい日は玄関前のベンチで日向ぼっこや庭の花を眺めたり、切り花をリビングに生けている。ドライブや桜見物や紅葉狩りを立案し、季節を感じ取れるよう努めている。家族支援で買い物や外食等に出掛けているケースもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を所有する事はなく、日用品の購入のお預かり金として、ホームで保管をし、希望されたり、必要な物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話を希望をされる方には、管理者が必要に応じて取り次ぎをし、話をして頂いている。手紙のやり取りをしている人はいらっしゃる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間や居室は、毎日、掃除をし、こまめに換気を行っている。季節ごとに壁の飾りや置物等を変え、。また食事中には、テレビを消し、音楽をかけて居心地よく過ごせるようにしている。	利用者は、リビングや居室など自分の居場所で新聞や週刊誌、テレビを見るなど自由に過ごしている。職員は、快適な居住空間になるよう清掃や換気等に配慮している。アジサイの花を花瓶に挿し、季節飾りなど四季の移ろいを室内でも味わえるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間で居心地よく過ごせる様、テレビが好きな方は、見やすい席に座って頂くなど、工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居時、希望にてご本人の家具や飾り物を置いている。また、毎日掃除・換気をし、心地よく過ごして頂けるよう配慮をしている。	自分の部屋として認識できるよう入り口附近に利用者の写真を掲示している。居室にはクローゼットが設置されており、持ち込まれたベッドやちゃぶ台、家族写真などが身近に置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の妨げにならないように、物の配置に注意し、トイレには、プレートをつけて、安心安全に心掛けて自立した生活が出来るよう工夫している。		